

平成二十九年国文学科講義題目, 編集後記,  
執筆者紹介, 奥付

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-11-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4620">https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4620</a>

平成二十九年年度 国文学科講義題目

大学入門ゼミ

田原広史・長谷あゆす・森西真弓  
東野敏夫  
文学の読み方

中 周子・森西真弓・檀原みずず  
東野敏夫  
国文学入門 A

田原広史・中 周子・長谷あゆす  
東野敏夫・奈良崎英穂・青木治道  
国文学入門 B

田原広史・中 周子・長谷あゆす  
東野敏夫・奈良崎英穂・青木治道  
日本文化論

白川 哲郎  
日本文学概論  
中 周子  
日本語学概論  
田原 広史  
古典文法概論  
木村 雅則  
現代文法概論  
田原 広史

文学作品講読(上代・中古) A  
中 周子  
文学作品講読(下代・中古) B  
生井真理子  
文学作品講読(中世・近世) A・B

長谷あゆす  
檀原みずず  
文学作品講読(近代・現代) A  
奈良崎英穂  
文学作品講読(近代・現代) B  
木村 雅則

日本語講読 A  
木村 雅則  
日本語講読 B  
田原 広史

古典文学史  
近現代文学史

日本文学研究(上代・中古) A  
中 周子  
日本文学研究(上代・中古) B  
白川 哲郎  
日本文学研究(中世・近世) C・D

長谷あゆす  
檀原みずず  
日本文学研究(近代・現代) A  
奈良崎英穂  
日本文学研究(近代・現代) B  
木村 雅則

日本語学研究 A  
田原 広史  
日本語学研究 B  
森川史実代  
仮名書法 A・B・C  
漢字書法 A・B

漢字書法 C  
漢字仮名交じり書法 A・B  
増田 達治  
漢字書法 C  
漢字書法 A・B

観賞法  
美濃 幸男  
書鑑賞  
美濃 幸男  
篆刻法  
美濃 幸男

書論  
美濃 幸男  
創作研究 A  
東野 敏夫  
創作研究 B  
東野 敏夫  
創作法 B・C  
東野 敏夫  
書論 B  
東野 敏夫

出版編集企画論  
鳴崎さや香  
著作権概説  
森西 真弓  
創作理論と実践 A  
奈良崎英穂  
創作理論と実践 B  
安田 純生

創作演習 A  
奈良崎英穂

中 周子  
檀原みずず

中 周子  
白川 哲郎

長谷あゆす  
檀原みずず  
奈良崎英穂

木村 雅則  
田原 広史

森川史実代  
悦美

増田 達治  
増田 達治

美濃 幸男  
美濃 幸男

美濃 幸男  
東野 敏夫

東野 敏夫  
東野 敏夫  
鳴崎さや香  
森西 真弓  
奈良崎英穂  
安田 純生  
奈良崎英穂

創作演習 B  
森西 真弓  
創作演習 C  
酒多 隆子  
創作演習 D  
田中 新一  
創作演習 E  
山口佐知子  
創作表現研究 A  
中 周子  
創作表現研究 B  
森西 真弓  
マンガ編集企画論  
青木 治道

作品制作基礎  
藤原 舞子  
作品制作応用  
藤原 舞子  
CG基礎  
都築 由浩

キャラクター制作演習 A・B  
南天 佑・青木治道  
キャラクタービジネス論  
大島 一豊

サブカルチャー史  
應矢 泰紀  
デジタルコンテンツ論  
都築 由浩

情報メディア論  
酒多 隆子  
作品制作演習 C・D  
小笠原成彦

サブカルチャー研究 A・B  
應矢 泰紀  
キャラクター制作演習 C・D  
小笠原成彦

研究入門ゼミ A・B  
田原広史・中 周子・長谷あゆす  
東野敏夫・奈良崎英穂・青木治道

発展ゼミ A・B  
田原広史・中 周子・檀原みずず  
東野敏夫・奈良崎英穂・小笠原成彦

南天 佑

発展ゼミC・D

田原広史・檀原みずす・長谷あゆす  
東野敏夫・奈良崎英穂・青木治道  
南大 佑

書写A・B

増田 達治

漢文講読A・B

生井真理子

中国書道史

美濃 幸男

日本書道史

美濃 幸男

中国文学

池田 光子

中国文学史

池田 光子

国語科教科教育法A・B

木村 雅則

国語科教科教育法C・D

木村有美子

書道科教科教育法A・B

東野 敏夫

## 編集後記

平成二十九年度、樟蔭学園は創立百周年を迎えた。歴史と伝統がある学園であるが、果たして我々は歴史や伝統の重要さを日々忘れずに過ごしているだろうか。伝統にあぐらをかいてはいないだろうか。そもそも、ものごとの価値観が定まりにくい現代社会にとって、あるべき伝統とは何なのか。そのようなことに思い悩む今日、この頃である。

国文学会報六十一号でもご報告したが、一昨年、昨年と国文学科を支えてくださった先生方を次々とお見送りすることになった。平安文学の西木忠一先生、国語学の西端幸雄先生、そして、キャラクター文芸コースを立ち上げ、見守ってくださった塚本裕三先生のお三方である。月並みな言い方ではあるが、いずれも個性的で人間味溢れる先生方であり、大学教授らしい方々であったと思う。

国文学科にも新しい先生方が次々と来られ、新しい学科の学びを展開すべく奮闘中である。「大阪・上方」、「読書」、「言語力」といった基本に立ち返るような言葉であるが、学生が就職戦線に立ち向かっていくための武器となるように、また、将来社会の役に立つための力となるように考え、このようなスローガンのもと、教育内容を一新することにした。

樟蔭国文学科の発展のため、今後とも、卒業生の方々のお知恵やお力添えを願う次第である。

(国文学科長 田原広史)

執筆者紹介

生井 真理子 本学非常勤講師  
田原 広史 本学教授  
木村 有美子 本学非常勤講師  
あせこのまゐ 奈良崎英穂・本学准教授

樟蔭国文学 第五十四号

平成三十年三月一日発行

編集者 大阪樟蔭女子大学  
国語国文学会  
(代表者 田原広史)

印刷所 大阪府豊区全寺基十四十六  
株式会社 信利

電話 (六六七三) 一八三  
五十七一八五〇

東大阪市菱屋西四丁目二番二六号  
大阪樟蔭女子大学国文学科  
大阪樟蔭女子大学  
発行所 国語国文学会  
電話 (六六七三) 八二八